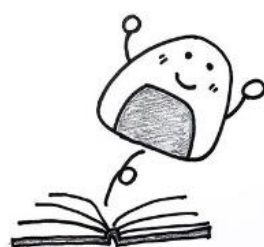


2017年度

おむすびころりん愛知 事業報告書

——外国にルーツを持つ子どもと親の読書活動をサポート——



おむすびころりん愛知

1. 活動の記録

1) 読み聞かせスタッフの派遣

① ブラジル人学校(エスコーラ・ネクター)へ



ポルトガル語のはらぺこあおむしを持参



小さな図書委員さんが活躍中

「一年間の活動を通して」 中野美智子

ポルトガル語で話す子どもたちに、1週間に2回、火曜、木曜日午前10時から30分絵本や紙芝居を持参して読み聞かせを行いました。また、子どもたちに好きな絵本を選んでもらい自由に読んでもらう「自由閲覧」の時間も設けました。

子どもたちの成長ははやい。3歳の男の子、女の子も読みたい本の好みが出て主張もするようになりました。3歳から10歳と年齢にバラつきがありひらがな文字が読める子どももいます。どんな絵本を持参すればよいか悩むこともあり、試行錯誤しながらの活動でした。読み聞かせは絵が分かりやすい、可愛い動物が出てくる、文字の少ない等のものを選んでいましたが、それだけでは何か物足りなさがあるのではと子どもの反応を見て感じるようになりました。本の内容を通訳して子どもたちにつたえてくださるネクターのスタッフの方に負担がかかりすぎてもいけないので、参加型の紙芝居や絵本の発掘も新たに必要だと感じています。「あぶくたつた」「ぶたたぬききつねねこ」などリズムがあるのも好きなので楽しみながら絵本に接していけたらと思っています。子どもたちの顔ぶれも保護者の都合で流動的な中、環境が一定しません。ぶれないで活動ができるようきょう、ふりかえりと柔軟な対応を行い、なお一層の努力が必要だと感じています。

※報告書の表紙の写真は、エスコーラネクターで人気の紙芝居読み聞かせ風景です

②NPOトルシーダとの協働(豊田市、みよし市)



「おおきな」子どもたちも、楽しんでくれます



ひらがなの本を使ったゲームは大人気!

「一年間の活動を通して」小野則子

外国籍の青少年の日本での生活を支援する NPO トルシーダの保見教室、豊田市駅前教室で月に一度(春夏冬休みを除く)読み聞かせ活動を行いました。対象が小学校低学年から、17、18歳の青少年までと幅広く、強い言語も日本語能力も様々なことから、選書や読み聞かせの方法に昨年度まではかなり悩んでいましたが、今年度は方針が定まってきました。高校受験を控えた子どもたちには、ほっと一息しながら楽しく日本語と日本文化に触れる時間を、低学年の子どもたちには、絵本が読書習慣への入り口になるように、とにかく楽しめるもの、そして大勢の人々と絵本や紙芝居を楽しむ一体感を味わえるようなものをと考えるようになりました。日本語を勉強中の子どもたちに対して、以前はこの絵本を読んだら、こんな日本語表現が覚えてもらえるのではないかという、日本語教育の効果を少なからず期待することもしばしばでしたが、今年度はその要素が減ってきました。来年度も、子どもたちとの楽しい時間を過ごさせてもらいたいと思っています。

「一年間の活動を通して」岩本道子

NPO法人トルシーダが運営するみよし市の教室で、春夏冬のお休みを除き月平均3回40分程度の読み聞かせと自由閲覧を行いました。主な対象は小学校1~2年生の子どもたちで、日本語での学校生活から解放された放課後すぐの時間です。子どもたちの顔ぶれは、年度替わりだけでなく年度途中でも変わります。その為、かなりストーリー性のあるお話が読み聞かせられるようになったかと思うと、全く日本語が分からない子どもが加わったりで、今年度の悩みも選書でした。でも昨年ははっきりした選書のポイント、同じ年頃の子どもの主人公にしたものと生き物の本がいいという点は変わりません。そして今年は、中学生から小学一年生の小さい子まで怖い話が大好きということもわかりました。自由閲覧では、読まなくても楽しめる図鑑が圧倒的人気でした。そんな中、もっと読んでほしいような子には声をかけて読んだり、たどたどしく声を出して読もうとする子がいたらゆっくり待つ聴衆になったりと、自由閲覧の時間を「子どもが一人で読む」にはこだわらないで楽しむよう努めました。その為か、自由閲覧の時間が伸び気味になってきています。来年度の変化を楽しみに継続していきます。

2) 勉強会の開催

第一回：7月6日、場所はとよた市民活動センターで。講師は読書指導古岸裕美子さんでした。子ども読書活動推進員の古岸さんを迎え、手遊びなどを交えた就学前の乳幼児を中心とした読み聞かせについてお話をいただきました。読み聞かせをする前段階として、手遊び、わらべ歌などでこどもとコミュニケーションをとる大切さと具体的な手法を学びました。また、子どもたちと絵本を通して遊ぶために適した選書リストをご紹介いただき、実際に読み聞かせをしていただきました。読み聞かせをしてもらう心地よさ、楽しさも体験できました。



第二回：8月22日、場所は豊田市男女共同参画センター「キラッ☆とよた」調理実習室で。「韓国の育メンパパチェさんによるお料理と韓国の民話」をテーマに主夫として2人のお子さんの育児をこなす育メンパパチェ・ジンウォンさんと、子育て中の藪内ヒョンジュさんを講師に料理は「魔法の万能たれで作る基本のプルコギ」を作りました。韓国に伝わる民話「三年峠」を読んでいただきました。男女共同参画に関する研修会を兼ねての開催でした。センターから視聴覚教材「夫育て」の提供を受け、参加者で視聴して、家族との協働について考える機会を得ました。

第三回：2月20日、場所は豊田市男女共同参画センター「キラッ☆とよた」で。講師は読書指導古岸裕美子さんでした。季節感のある選書について、選書リストとともにご紹介いただきました。講座の中では、実際に松ぼっくりや落ち葉などを拾ってきて、読み聞かせの際に見せるなど、現実世界と絵本の世界を結び付けるような活動も大切だということにも触れられていて、日々の活動の大きなヒントとなりました。次回は6月頃に再度講座をお願いしました。

第四回：3月20日、場所は豊田市男女共同参画センター「キラッ☆とよた」で。講師は、バイリンガル研究を、継承語という視点で取り組んでおられる鈴木崇夫さんでした。外国にルーツを持つ子どもの家族の方々に、バイリンガルについての知識をわかりやすく伝えるため、まずは自分たちが講師作成のバイリンガルクイズに取り組んでみました。参加者から自らの多言語での育児体験や、海外駐在中のお孫さんの言語使用の様子が共有されるなど有意義な時間を過ごすことができました。

3) 多言語電子絵本制作協力

多言語絵本の会 RAINBOW の多言語電子絵本制作の事業に録音と編集で協力しました。NPO トルシーダの子どもたちと録音作業をしました。今回は子どものお母さんも参加してくださいました。以下の URL でぜひご覧ください。全国各地の教育機関や NPO などに配布のため、DVD 制作も進んでいます。 <http://www003.upp.so-net.net.jp/ehon-rainbow/>



この日は「かぐやひめ」の録音でした



慣れない録音作業に試行錯誤中です

4) 他団体へのスタッフならびに講師派遣

公益財団法人三重県国際交流財団(MIEF)による「親と子の多言語おはなし会」講師派遣

- ① 5月31日、津市の外国人児童が火曜学童保育所「アート&ヴィーダ」にて。昨年度、代表小野が編集委員として参加して作成した多言語紙芝居「だんだらぼっち」を披露するおはなし会に、スタッフ3名で参加。新聞等にも取り上げられました。
- ② 7月2日、鈴鹿市牧田コミュニティセンターにて。参加者は65名。七夕にちなんだお話を行いました。ポルトガル語、中国語を交えて、絵本『たなばたセブン』を読み聞かせた後、親子で一緒にてるてる坊主を作ったり、短冊に願い事を書いて笹に飾ったりしました。当団体から2名スタッフとして参加しました。



① 中日新聞津市民版 2017年6月10日朝刊



② きらきら星のダンスをポルトガル語と中国語で

5) 多言語で育つ子どもとその家族のためのおはなし教室

(Glocal Toyota 共催)

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

①10月21日(土)体験しよう!多言語よみきかせ



紙芝居をみるのが初めての親子も多数。すっかり紙芝居の世界に入り込みました。



バイリンガル教育の専門家と、多言語で育つという子どもの発達について学びました。



母語での読み聞かせに挑戦。様々な言語が飛び交いました。

②12月9日(土)表現するのって面白い!劇の創作体験



おおきなかぶの登場人物のお面を作り、劇に挑戦しました。



通訳スタッフも総出で見本の演技をしました



ウォームアップはペンギン体操でした

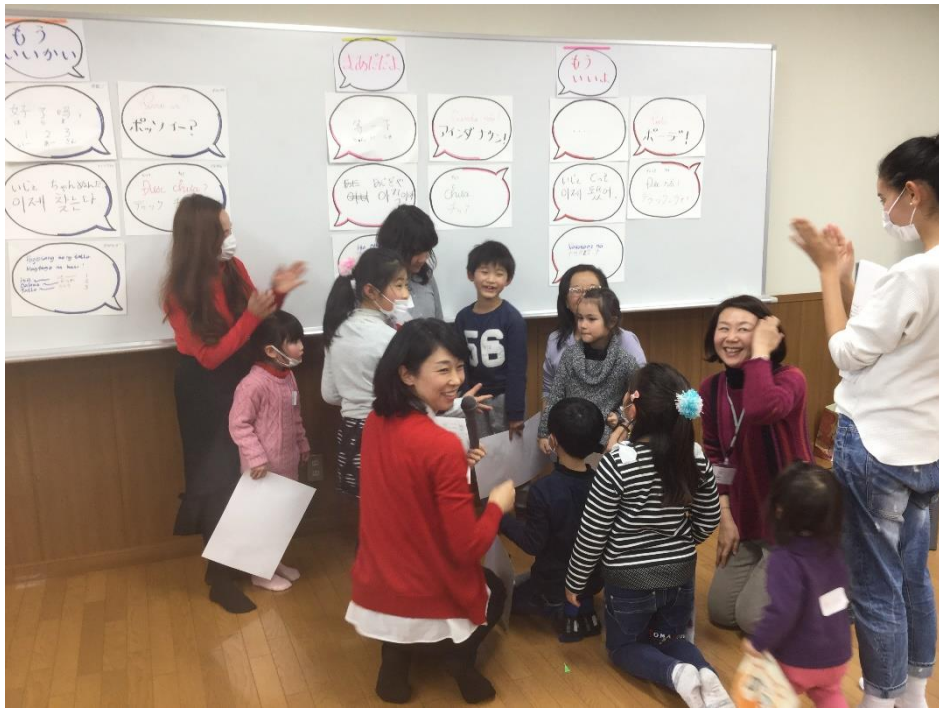
③1月27日(土) 切って、書いて、かみしばい工作



オリジナル紙芝居「かくれんぼ」に興味津々。この日のテーマはかくれんぼでした。



かみしばいの一場面にてんとう虫を隠します。親子で真剣に取り組みました。



「もういいかい」「まーただよ」を各言語で言ってみました。



作品を手に最後の集合撮影。いろんなかくれんぼのシーンが出来上がりました。

2. 助成金活用と会計報告

今年度は、豊田市民活動促進補助金で絵本や紙芝居等備品の更なる充実を行い、こどもゆめ基金で自主事業を行うことができました。その結果、決算金額が45万円弱と今年も大きくなりましたが、謝金の削減を図ることにより予算内に収めることができました。また、伊藤忠記念財団子ども文庫助成事業より、100冊の新品絵本の寄贈がありました。

平成29年度 【おむすびころりん愛知】 収支決算書						
会計年度 平成29年4月1日～30年3月31日						
収入の部						
大科目	小科目	予算額(ア)	決算額(イ)	差引増減額(イ)-(ア)	内 訳	備 考
会費収入	正会員費	12,000	12,000	0	@3,000円×4名	
	一般会員	9,000	12,000	3,000	@1,000円×12名	
	賛助会員	15,000	45,000	30,000	@3,000円×15口(9名)	
事業収入				0		
				0		
				0		
補助金収入	促進補助金	100,000	100,000	0		1年目
	子ども夢基金		164,000	164,000	会場費、講師料、消耗品	子どもの読書活動支援
寄付金収入	寄付金	42,000	37,825	-4,175		
雑収入				0		
				0		
前年度繰越金	繰越金	78,500	78,535	35		
収入合計①		256,500	449,360	192,860		
支出の部						
大科目	小科目	予算額(ア)	決算額(イ)	差引増減額(イ)-(ア)	内 訳	備 考
事業費	子ども夢基金		173,376	173,376	会場費、講師料、消耗品	子ども夢基金事業
管理費	講師謝礼(報償費)	15,000	20,000	5,000	講師謝礼	【市民活動促進補助事業】
	翻訳(報償費)	20,000	14,000	-6,000	翻訳謝金	【市民活動促進補助事業】
	交通費	85,000	81,622	-3,378	実費(但、車は¥15/km)	読み聞かせ&会議旅費
	消耗品代(需用費)	10,000	9,437	-563	インクカートリッジ	【市民活動促進補助事業】
	絵本(需用費)	50,000	55,013	5,013	絵本(含:海外絵本)	【市民活動促進補助事業】
	通信費(役務費)	6,000	3,612	-2,388	書類郵送料、切手等	総会資料等送付
	使用料、賃借料	4,000	400	-3,600	会議室使用料	
	備品購入(備品費)	5,000	4,958	-42	ラベルライター	【市民活動促進補助事業】
	助成金返金(未払金)	46,200	42,769	-3,431	モリコロ基金返金分	愛知モリコロ基金事業
				0		
予備費	予備費	15,300	32,812	17,512	コピー代、手遊びセット等	
支出合計②		256,500	437,999	181,499		
当期収支差額						
	当期収支差額=	収入合計①-	支出合計②=	次期繰越金		
		449,360	437,999	11,361		



伊藤忠子ども文庫から 100 冊の絵本の寄贈をうけるなど、蔵書も増えてきました。

3. 2017 年度の成果と課題

成果

- ・読み聞かせのスタッフ派遣は 129 回、対象の子どもたちの延べ数約 1000 名、読んだ本と紙芝居は 247 作品でした。読み聞かせに通い続けることにより、以前より子どもたちの様子や気持ちにまでしっかり向き合えるようになりました。それが子どもたちとの気持ちの交流につながり、選書から読み聞かせをしながらのやり取りまで、読み聞かせに関わる全ての大きな力になることを実感しました。
- ・多言語電子絵本や、MIEF の多言語紙芝居のおはなし会に協力することで、他地域の子どもたちが母語でお話に触れる機会を増やす一助となったと感じています。
- ・読書指導者を招いた勉強会では、お話の内容、季節、絵の種類、ことばの種類や形態など、絵本には様々な着眼点があることに気づかせてもらうことができました。
- ・継承語の勉強会は、外国にルーツをもつ子どもたちにとって継承語や日本語がどのようなものなのかを知る非常に有益な機会になりました。日本語でしか読み聞かせができない私たちにとって、しっかり理解しているべき問題で、多言語読み聞かせの重要性と、何よりその親への働きかけの大切さを知ることになりました。
- ・同じブラジル人学校に 2 年以上通ったことで、子どもたちが楽しみに待っていてくれるという状況ができました。また月に 1 回程度ですが、交流館に連れて行く活動を行ったところ、自由に自分の好きな本を手に取り楽しそうに本を読む姿を見ることができました。
- ・子ども夢基金助成活動のお話教室実施により、親子での読み聞かせの楽しさや大切さを感じてもらうだけでなく、同じ地域に住む人達同士の言語や文化に関する情報共有の場を提供できました。
- ・助成をうけ少しずつ増えてきた外国語の絵本が、その言語が母語である子どもたちが喜んで眺め、その言葉をできる人に読んでもらう光景を見ることができました。

課題

- ・昨年に引き続き読み聞かせた本の記録と、読み聞かせた反応、スタッフが感じたことを記録に残していますが。選書の際に利用しやすいような形を考えたいです。
- ・勉強会で親への働きかけの重要性を知ることとなりましたが、働きかけの仕方をどうするかを考えていかなければならないと感じました。
- ・通訳ができるスタッフのおかげで、本の内容を子どもたちに伝える事が出来ましたが、言葉を覚える過程で日本語とポルトガル語を交互に読む形は良くないという専門家の話もありました。週に1回30分程度で本の楽しさを伝える活動がメインですが、より良い成果を出すためにはまだまだ勉強不足だと感じています。
- ・継承語についての理解を深めるための勉強会を継続したいです。また、勉強会の内容を各言語で紹介できるように翻訳協力者を募りたいです。
- ・いつでも継続的に持参できる、外国語の絵本がまだまだ足りないと感じています。図書館等との連携を含めて、母語の絵本の調達が必要です。

4. 2018 年度の目標

- ①読み聞かせ活動を続けます！
- ②外国にルーツを持つ子どもを取り巻く人たちに向け、読み聞かせにおすすめ絵本の発信に取り組みます。(HP や Facebook などを通して)
- ③スタッフの勉強会を行い、読み聞かせの質の向上を目指します。
- ④継承語の勉強会を続け、外国にルーツを持つ子どもたちの保護者に対しての働きかけを行います。

ご支援をいただいている方々に心から感謝いたします。
みんなが絵本を楽しめるように頑張ります。



おむすびころりん愛知

Tel&Fax: 0565-85-8626

omukoroaichi@gmail.com

<https://omukoro.jimdo.com/>

<https://www.facebook.com/omusubikororinaichi/?pnref=story>

5. 資料

【読み聞かせスタッフ派遣回数】129 回

	エスコーラ・ ネクター	NPO トルシーダ	計
4 月	7	0	7
5 月	8	5	13
6 月	8	5	13
7 月	7	4	11
8 月	4	3	7
9 月	8	5	13
10 月	8	4	12
11 月	8	5	13
12 月	6	5	11
1 月	5	4	9
2 月	5	5	10
3 月	5	5	10
計	79	50	129

【読み聞かせをした子どもたちの国と母語(継承語)】

- ・ブラジル(ポルトガル語) ・パキスタン(ウルドゥー語)
- ・フィリピン(タガログ語、ビサヤ語、他) ・中国(中国語)
- ・ネパール(ネパール語) ・ベトナム(ベトナム語) ・台湾(台湾語)

【読み聞かせをした子どもたちの延べ人数】

約 1,029 名

【読み聞かせをした絵本と紙芝居等の総数】

247 作品